

第2回奈良県立高等学校入学者特色選抜検証改善委員会（要旨）

1 日時・場所

- (1) 日時 平成22年10月6日（水）午前9時30分～正午
(2) 場所 奈良県庁内 第62会議室

2 出席者

委員	
奈良教育大学 教授	重松 敬一
大和高田市教育委員会 教育長	楠 征洋
奈良県PTA協議会 会長	吉川 敬代
奈良県高等学校PTA協議会 会長	榎堀 秀樹
奈良県中学校長会 会長	廣瀬 裕司
奈良県中学校長会 進路部長	安達 光男
奈良県中学校長会 進路部事務局長	岩田 晴行
奈良県高等学校長協会 会長	西岡 英明
奈良県高等学校長協会 高校入試研究委員長	辻 寛司
奈良県高等学校等教務研究協議会 理事長	木南 俊亮
県立教育研究所 副所長	小林 勢治

3 協議の概要

成果等

- ・特色選抜が導入されたことで、いろいろな高校の体験入学などに中学生が参加する機会が増え、早くから進路に関する意識をもつようになった。
- ・高校の教員が、自校作問のため中学校の教科書や学習指導要領を勉強し、中高の接続という意味で特色選抜は意義がある。
- ・特色選抜のスタート時においては自校作問も活発で、期待どおりの意義があった。
- ・特色選抜を導入したことによって、各高校の教育内容や取組をオープンキャンパスでアピールしたり、シラバスを作って公表したり、ホームページを改善したりと、高校の教育活動を様々な形で発信し、アピールする機会が増えた。
- ・今まで特色選抜に向けて、各高校が特色化や魅力化、レベルアップに向けて取り組んできた中身は、価値がある。

課題等

- ・国語、数学、英語の自校作問がなくなり、特色選抜の理念が継続されているとはいえない難い部分がある。
- ・特色選抜は意義があったが、高校では、在籍している生徒への指導に支障をきたしている等の想定していなかった課題も出てきた。
- ・高校全体として、普通科においては特色選抜の在り方にはかなり課題が多いという点が共通している。
- ・特色選抜で不合格となる人数が多く、また、不合格者の大部分が一般選抜で合格している現状もあり、不要な不合格体験と挫折感を味わわせている。
- ・特色選抜で不合格となりショックを受け、次の受験に取り組めない生徒もいる。
- ・同じ普通科であっても、学校によって加重配点等が異なるなど、入試制度が複雑になり、受験生への指導等に支障をきたしている。
- ・私立高校の合格者に加え特色選抜の合格者の数が増えているので、中学校では一般選抜までの落ち着いた学習環境作りが難しい。
- ・普通科では、早く合格したいという理由で特色選抜を受験している場合もある。
- ・検査教科が少ない特色選抜の受験者が増え、中学校で幅広い教育をしようとしても、受験に必要な教科以外の学習がおろそかになるという生徒も一部に見受けられる。
- ・普通科は、学力検査問題の作成や入学後の教育課程の編成等において、特色選抜を生かし切れていない部分もある。

改善に向けて

- ・時代とともに入試も変化する。（今の時代にふさわしい特色選抜の新しく改善された形を。）
- ・高校入試のために中学校での第3学期の教育活動が十分に機能しなくなるといったことのないよう、特色選抜制度を改善してほしい。
- ・特色選抜を受験して早く合格したいという気持ちと同じように、大学入試においてもAO入試や推薦入試を利用して早く大学を決めたいという風潮が感じられる。中学・高校が一体となって、最後までがんばれる生徒の育成に努める必要がある。
- ・かつては、専門学科や特色あるコースは分割選抜、普通科は一般選抜と住み分けがきちりできていた。このよさと、現在の特色選抜のよい点を併せもつような入試制度を考えていきたい。
- ・普通科というくくりで一括して考えるのではなく、普通科の中でも教育目標や教育内容に特色をもつコースについては、その特色が入試に反映できるようにすることは大切である。
- ・中学校1年生の時から、入試を含め高校の情報を入手しやすい環境作りを行う工夫が必要である。
- ・積極的な改善のコンセプトをわかりやすい表現で発信することが必要である。